

**業務用 18 型 4K/HDR ディスプレイ “DP-V1830” を発売
放送局の中継車や副調整室向けに黒表現・広色域・広視野角性能を強化**

キヤノンは、業務用 4K ディスプレイの新製品として “DP-V1830” を 2022 年 1 月中旬に発売します。



DP-V1830

新製品は、キーデバイスである高画質ディスプレイ用エンジン、高精度アルゴリズム、パネルおよびバックライトシステムを刷新し基本画質性能を大幅に向上させた業務用 18 型 4K/HDR ディスプレイです。HDR 規格基準^{※1}を満たしながら、放送局の中継車や副調整室などスペースの限られた場所での運用にも適した 18 型の薄型・軽量を実現しています。これにより、映像制作のプロが求める幅広い 4K 高画質性能を実現するとともに、多様なワークフローにおける効率的な作業をサポートします。

■ 黒の表現力強化により明部・暗部の混在する映像でも高コントラスト表示が可能

HDR 映像制作の基準となる最大・全白輝度 1,000cd/m² を実現しながら、高画質エンジンの大幅な性能向上により、より緻密なバックライト制御が可能になり、明部と暗部の境界でもめりはりの利いた高コントラストな映像表示を実現しました。これにより、放送や映画の映像制作において重要な黒の表現力が高まり、夜景や花火など明部と暗部が混在するシーンでも、暗部の色の階調を正確に表現し、暗部の深い黒沈みと明部のきらめきを両立させた表示が可能です。

■ HDR 映像制作現場で求められる広色域と広視野角の実現

ITU-R BT.2020^{※2}の色再現範囲を忠実に表示できるよう、LED の色・輝度等の各性能を最大限に引き出すキヤノン独自のバックライトシステムを搭載し、広色域化を実現しています。さらに、視野角による輝度や色の変化を抑える独自の光学設計により、複数の人が同時にモニタリングを行うことができ、正確な映像確認に貢献します。

■ 19 型ラックマウントに設置可能な薄型・軽量な本体デザイン

18 型/4K/HDR の高輝度モデルでありながら、質量約 7.5 kg の薄型・軽量な本体デザインを実現しています。EIA^{※3}規格対応の 19 型ラックに搭載可能^{※4}で、放送局の中継車や副調整室など既存の映像制作・放送設備を活用することができ、撮影現場などでの運搬も容易です。

製品名	希望小売価格	発売日
DP-V1830	オープン価格	2022 年 1 月中旬

※1 「EBU TECH3320 USER REQUIREMENTS FOR VIDEO MONITORS IN TELEVISION PRODUCTION Version4.1」および「Dolby Vision Certified Mastering Facilities Colorgrading Systems and Monitors V1.4」に基づき当社試験条件で測定。
 ※2 ITU（国際電気通信連合）策定の UHDTV 放送方式の映像信号を規定する勧告。
 ※3 Electronic Industries Alliance（米国電子工業会）の略。電子機器や通信に関する標準化や規格制定などを行う業界団体。
 ※4 ラックマウント金具（別売り）が必要です。

● 一般の方のお問い合わせ先 : キヤノンお客様相談センター 050-555-90006
 ● ディスプレイホームページ : canon.jp/v-display

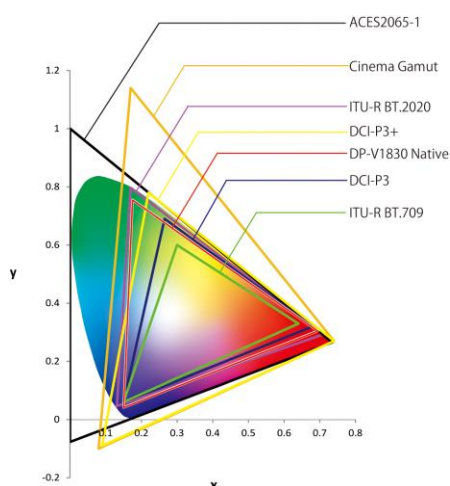
<主な特長>

1. 黒の表現力強化により明部・暗部の混在する映像でも高コントラスト表示が可能

- ・HDR 映像制作の基準となる最大・全白輝度 $1,000\text{cd/m}^2$ を実現しながら、全黒輝度 0.001cd/m^2 を達成し、コントラスト比 100 万 : 1 を実現。
- ・高画質エンジンの大幅な性能向上により、LED をきめ細かく点灯・非点灯駆動させる緻密なバックライト制御が可能になり、明部と暗部の境界でもめりはりの利いた高コントラストな映像表示を実現。放送や映画の映像制作において重要な黒の表現力が高まり、夜景や花火など明部と暗部が混在するシーンでも、暗部の色の階調を正確に表現し、暗部の深い黒沈みと明部のきらめきを両立させた表示が可能。

2. HDR 映像制作現場で求められる広色域と広視野角の実現

- ・4K 放送規格である ITU-R BT.2020 の色再現範囲を忠実に表示できるよう、LED の色・輝度等の各性能を最大限に引き出すキャノン独自のバックライトシステムを搭載し、広色域化を実現。
- ・視野角による輝度や色の変化を抑える独自の光学設計により、複数の人が同時にモニタリングを行うことができ、正確な映像確認に貢献。



ITU-R BT.2020 を忠実に再現する広色域
その他各種色域にも対応



DP-V1830 の視野角イメージ



一般的な製品の視野角イメージ

DP-V1830 と一般的な製品の視野角比較
(イメージ)

3. 19 型ラックマウントに設置可能な薄型・軽量の本体デザイン

- ・18 型 / 4K / HDR の高輝度モデルでありながら、質量約 7.5kg の薄型、軽量の本体デザインを実現。EIA 規格対応の 19 型ラックに搭載可能で、放送局の中継車や副調整室など既存の映像制作・放送設備を活用することが可能。
- ・撮影現場での使用時にも大音量出力が可能なステレオスピーカー（最大出力は左右ともに 2W）を内蔵。
- ・効率の良い放熱構造により、高輝度表示時や静かな編集室でもファンの音を気にせず快適な編集作業が可能。
- ・取り外しが可能なシングルハンドルを使用することで撮影現場などでも運搬が容易。



ディスプレイ下部にステレオ
スピーカーを内蔵



薄型・軽量で持ち運びが容易

4. 幅広い映像制作現場で効率的な作業をサポートする多彩な機能

- ・現行機種で好評の各種 HDR 映像確認アシスト機能を搭載し、HDR 映像制作の作業効率化に貢献。



- ・入力信号エラーを検知、確認する警告表示やエラー履歴表示など各種運用支援機能を搭載し、作業中のミス低減に寄与。
- ・4K や 8K の映像制作に適した 12G-SDI 端子 (IN/OUT 各 4 系統) を搭載。4K/60P の映像信号は最大 4 系統の入力ができ、1 台のディスプレイで信号を切り替えながら効率的に複数の映像を確認することも可能。8K/60P の映像信号は 1 系統で入力が可能。8K の入力信号から縮小した 4K 映像を画面で確認可能。

5. ファームウェアアップデートによる機能向上 (予定)

- ・入力映像の 2 画面/4 画面での個別画質設定、映像内の全画素の色度点分布を確認できる色度図表示、波形モニターの RGB を並べて表示できる RGB パレード表示機能、SD 映像を SDI 端子で入力可能にする機能など、ディスプレイの基本機能を向上させる各種新機能 (無償) を追加するファームウェアを開発中。2022 年夏頃に提供開始予定。
- ・ディスプレイ本体背面に搭載の機能拡張用「MULTI FUNC.SDI OUT」端子を使用し、本端子から任意の入力映像を選択・出力できるスイッチアウト機能 (有償) を追加するファームウェアを開発中。2022 年夏頃に提供開始予定。

*開発中の機能や予定内容は、予告なく変更する可能性があります。

<4K 映像制作ディスプレイの市場動向>

映像制作業界ではデジタル化に伴い、映画などの映画制作業界で 4K 映像への対応が急速に拡大しています。また、動画・音声をインターネット上で提供する OTT (Over The Top) サービス等の最先端の映像制作現場では、4K/HDR 映像の高画質なフォーマットへの対応も進んでいます。放送においても 4K/8K 放送が始まっており、入力から出力まで映像制作ワークフローの 4K/8K 化が進んでいます。高精度な映像制作機器の需要が高まるとともに、4K/8K 映像を忠実に再現できる高画質・高精細の 4K 映像制作ディスプレイのニーズも高まっています。(キヤノン調べ)

<主な製品仕様>

製品仕様の詳細は、ホームページをご参照ください。